



小さなものはみな美しⅢ
令和8年5月8日(金)~13日(水)

今回は新年早々の開催でしたが、今回は立夏が過ぎての開催です。そんな清々しい季節にふさわしい、小さくても魅力的な作品が集まりました。今回、日本を代表する青磁作家・川瀬忍さん、ガラス工芸作家で多摩美術大学教授・馬越寿さんを特別ゲストとしてお迎えしました。テーマは、初回と同様「書斎と茶室―二つの空間におけるもの―」です。小さくても魅力的であること、凛として存在感があること、少し無理をすれば購入できる価格であることなどを条件に、陶芸と金属とガラスの作家九人による企画展です。

市岡真治の《真鍮小壺》を見た時、激しい衝動に駆られた。摘みを中心に広がる魚々子に、枯山水を見たのである。そう思つて眺めると、胴の緑青が波のように、雲のようにも見える。この小壺には、きつと「空の思想」が詰まっているのであろう。

戸田浩二の《高萩茶入》は、野々村仁清の「唐物写十九種茶入」の中にある茶入を模したものの。姿は注ぎ口と把手のついた「水滴」で、「高萩」とあるから高萩の土を制作したものであろう。小さな作品だが、作家本来の緊張感は失われていない。

中田雅巳の《ころ（スマイル）》は、「丸いもの」「小さなもの」の意味をもつ、この作家独自の《ころ》シリーズ作品である。今回は、円形の片面に凹凸を作つて、見る角度によつて人が笑つていふようなユニークな表現を試みている。

星野友幸の《香合 李（スモモ）》は、桃よりも小粒で甘酸っぱいピンク色をしたスモモの果実を型に起こし、香合にしたもの。古くに中国から伝わり、豊かさや子孫繁栄をイメージして、わが国では多く和歌に詠まれ愛された。スモモはバラ科サクラ属の果樹である。

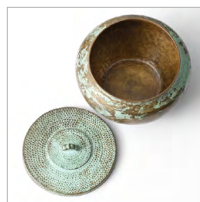
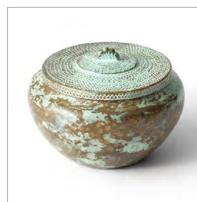
加藤貢介の《CUBE18》は、立方体の板を繋ぎ合わせた中空構造の作品で、ダマスカス柄とゴールドがお互いを引き立てている。この立方体は、海水の重要な成分である塩の結晶から生まれたもので、人体の内なる生命の海とも繋がっている。

川瀬忍の円形の《翠瓷硯》は、天目の兎毫（とこう）を呈した青磁釉の硯であり、こんな格調の高い硯は、川瀬でないと生み出せないであろう。まさに今展に相応しい、書斎を彩る文房清玩である。他に水丞と墨床も出品される。

高橋奈己の《白磁茶器》は、複数のパーツに分けて「鑄込む」という手間のかかる工程を通して制作された作品である。小さいながらも凛とし、不規則な稜線から生まれる陰影とフォルムが美しい。年々深化する作品が評価され、二〇二五年度日本陶磁協会賞を受賞した。

馬越寿の《stick zigzag（掛花）》は、吹きガラスで下地を造り、それを切断してジグザグに組み替えて溶着、さらに削つてフォルムのアウトラインを確定させる。次に白と黒のエナメル顔料を塗布し高温で短時間加熱すると、すりガラスの表面が融けて透明度を増すという。

留守玲の《辞書に立つ》は、「辞書」という大地の上に立つ人の姿にも見える。言葉は伝達手段だけでなく人の本質や生き方をも表わしているが、その言葉を収録したものが辞書である。急速にAIが普及し文字が記号化する中、留守作品は静かに警告を鳴らしている。



真鍮小壺
φ6.3×H4.6 cm

市岡真治

Ichioaka Shinji

昭和51年 広島県生まれ

平成14年 多摩美術大学大学院 美術研究科 修了

現在、神奈川県小田原市にて鍛金による作品を制作

小さきものはみな美し Ⅲ

会 期 令和8年5月8日(金)～13日(水)

会期中無休

開 廊 時 間 11:00～19:00

※ 最終日の5月13日(水)は17:00まで

出 品 作 家 市岡真治 5月8日(金)～9日(土)

[在廊予定日] 馬越 寿 5月10日(日)

加藤貢介 5月8日(金)、13日(水)

川瀬 忍 5月8日(金)

高橋奈己 5月8日(金)、10日(日)、12日(火)

戸田浩二 5月8日(金)

中田雅巳

星野友幸 5月8日(金)～9日(土)

留守 玲 5月8日(金)～9日(土)

(五十音順)

会 場

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階

(JR新宿駅 中央東改札より徒歩1分)

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

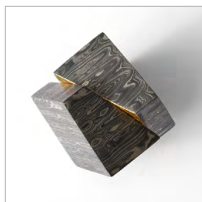
MAIL gallery@kakiden.com

柿傳ギャラリーHP



公式Instagram





CUBE 18
W7.0×D6.0×H7.0 cm

加藤貢介

Kato Kosuke

昭和63年 神奈川県生まれ
平成22年 玉川大学芸術学部 ビジュアル・アーツ学科 卒業、玉川大学芸術学部卒業制作展 学部長賞
平成24年 広島KAZARU展 広島市長賞
平成25年 広島市立大学大学院 修了、次世代工芸展 秋元雄史賞
平成27年 Powerful Expressions 加藤 貢介 鐵層ーてっそうー(清課堂ギャラリー/京都)
令和元年 第35回 淡水翁賞 優秀賞
令和4年 2022 金沢・世界工芸コンペティション 審査員特別賞
現在 神奈川県綾瀬市にアトリエを構え制作



stick -zigzag- (掛花)
W11.0×D1.8×H26.0 cm

馬越 寿

Umakoshi Yasushi

昭和43年 東京都生まれ
平成4年 多摩美術大学 デザイン科 立体デザイン専攻 クラフトデザイン専修 卒業
平成7年 New Glass Review 16 入選 コーニング美術館 (アメリカ)
平成9年 個展 ギャラリー仲間 (田園調布)
多摩美術大学 工芸学科 ガラスプログラム 助手 [~平成14年3月]
平成11年 個展 ギャラリーおかりや (銀座)
平成15年 自工房設立 (神奈川県津久井町)
平成17年 特別講義 東京藝術大学
平成19年 作品收藏 東京ミッドタウン (六本木)
現在 多摩美術大学工芸学科ガラスプログラム 教授



白磁茶器
W9.8×D8.5×H8.5 cm

高橋奈己

Takahashi Nami

平成 9 年 武蔵野美術大学短期学部専攻科（陶磁コース）卒業
平成 9～11 年 ファエンツァ国立陶芸美術学校 在籍（イタリア）
平成 28 年 第 63 回 日本伝統工芸展 新人賞、第 50 回 女流陶芸展 T 氏賞
平成 29 年 第 24 回 日本陶芸展 茨城県陶芸美術館賞
平成 30 年 第 11 回 現代茶陶展 TOKI 織部大賞
令和 3 年 「国立工芸館石川移転開館記念展 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—」
令和 4 年 「未来へつなぐ陶芸 一伝統工芸のチカラ 展」 パナソニック汐留美術館・全国巡回
令和 6 年 第 16 回 現代茶陶展 TOKI 織部優秀賞
令和 8 年 日本陶磁協会賞

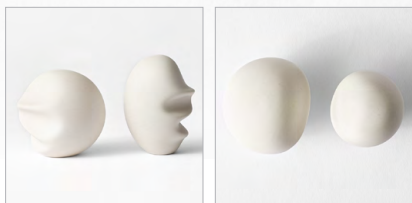


翠瓷硯
φ12.0×H2.0 cm

川瀬 忍

Kawase Shinobu

昭和 25 年 神奈川県生まれ
昭和 43 年 祖父（初代 竹春）、父（二代 竹春）のもとで作陶を始める
昭和 51 年 個展（寛土里・東京）（以後 21 回開催）
昭和 53 年 日本工芸会 正会員（平成 18 年退会）
昭和 56 年 日本陶磁協会賞
昭和 60 年 個展（壺中居・東京）（以後 14 回開催）
平成 21 年 個展（Joan.B.Mirviss Ltd・ニューヨーク）（以後 4 回開催）
平成 25 年 日本陶磁協会賞 金賞
平成 26 年 青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで（東京国立近代美術館 工芸館）
平成 30 年 川瀬 忍 作陶 50 年の間（菊池寛実記念 智美術館）



ころ(スマイル)

[左] W6.0×D5.5×H5.5 cm

[右] W5.0×D4.5×H6.5 cm

中田雅巳

Nakada Masaru

昭和52年 石川県生まれ
平成9年 石川県立九谷焼技術研修所 基礎コース 卒業
平成19年 金沢市工芸展 最優秀賞 (同21年)
平成26年 「Maister der Moderne」Bavarian States Prize 賞 (ドイツ)、「現代・陶芸現象」(茨城県陶芸美術館)
平成29年 菊池ピエンナーレ 奨励賞、日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞展 奨励賞
平成30年 「陶芸～新世代の技とカタチ」展 (札幌芸術の森工芸館)
令和3年 「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー」(国立工芸館)
北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 「工芸の時代、新しい日常」特別展II
令和4年 北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI 「工芸×Designが*つくるこれからの暮らし」



高萩茶入

W5.0×D5.0×H6.4 cm

戸田浩二

Toda Koji

昭和49年 愛媛県西条市生まれ
平成8年 筑波大学 体育専門学群 卒業
平成10年 伊藤東彦に師事 (～平成14年)
平成14年 茨城県笠間市に薪窯を築窯
平成29年 「戸田浩二 一聖水一」LIXIL ギャラリー (東京)
令和元年 「土と抽象 記憶が形に生まれるとき」益子陶芸美術館
令和5年 「第17回 パラミタ陶芸大賞展」パラミタミュージアム (三重)
令和7年 「花のある風景」泉屋博古館東京
令和8年 「戸田浩二 一儂水揺一」益子陶芸美術館



辞書に立つ

〔上のもの〕 W2.5×D1.3×H6.5 cm

〔台〕 W12.0×D12.0×H1.2 cm

留守 玲

Rusu Aki

昭和 51 年 宮城県生まれ
 平成 14 年 多摩美術大学大学院 美術研究科 修了
 平成 15 年 財団法人日本文化藝術財団 第 11 回 日本現代藝術奨励賞
 平成 19 年 開館 30 周年記念展 II 工芸のカー 21 世紀の展望 / 東京国立近代美術館工芸館
 平成 28 年 第 27 回 タカシマヤ美術賞
 第 2 回 菊池寛実賞 (智美術館)
 平成 29 年 第 34 回 公益財団法人美術工芸振興佐藤基金 淡水翁賞 最優秀賞
 令和 7 年 「皮膚と内臓ー自己、世界、時間」 / 台南市美術館
 現在、多摩美術大学 工芸学科 准教授



香合 李

φ5.6×H5.6 cm

星野友幸

Hoshino Tomoyuki

昭和 51 年 山梨県甲府市生まれ
 平成 11 年 横浜市立大学 商学部 卒業 人材サービス企業にて 5 年間勤務
 平成 17 年 京都府立陶工高等技術専門学校 成形科修了 猪飼祐一氏に師事
 平成 19 年 東京都国分寺市にて独立
 平成 25 年 第 60 回 日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞
 第 5 回 菊池ピエンナーレ 奨励賞
 平成 29 年 第 11 回 国際陶磁器展美濃 審査員特別賞 (選: 藤本壮介氏)
 令和 元 年 「陶の表現四人展」 (銀座和光ホール)
 令和 5 年 「陶芸の進行形」 (菊池寛実記念 智美術館)
 令和 7 年 「ピクチャレスク陶芸」 (パナソニック汐留美術館)

これまでの弊廊での「小さきものはみな美し」展



小さきものはみな美し

令和3年11月1日(月)～11月7日(日)

[出品作家]

伊勢崎晃一朗、市岡真治、伊藤慶二、加藤清之、
高橋奈己、戸田浩二、中田雅巳、福本双紅、
星野友幸、留守 玲

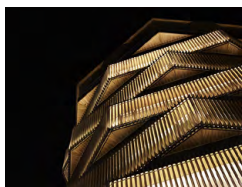


小さきものはみな美し II

令和6年1月24日(水)～1月29日(月)

[出品作家]

伊勢崎晃一朗、市岡真治、加藤貢介、加藤 委、
高橋奈己、戸田浩二、畠山耕治、星野友幸、
留守 玲



新宿で大人の道草を。

不夜城ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

価格表

	作家名 作品名		本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ(cm)
1	市岡真治 真鍮小壺 [桐箱付・後日]	P5	50,000 (55,000)	φ63×H46
2	馬越 寿 stick -zigzag- (掛花) [紙箱付]	P6	60,000 (66,000)	W110×D18×H26.0
3	加藤貢介 CUBE 18 [桐箱付・後日]	P7	150,000 (165,000)	W70×D60×H70
4	川瀬 忍 翠瓷硯 [桐箱付・後日]	P8	350,000 (385,000)	φ120×H20
5	高橋奈己 白磁茶器 [桐箱付・後日]	P9	60,000 (66,000)	W98×D8.5×H8.5
6	戸田浩二 高萩茶入 [桐箱付・後日]	P10	70,000 (77,000)	W50×D50×H6.4
7	中田雅巳 ころ (スマイル) [箱無し]	P11	各 30,000 (各 33,000)	[左] W60×D5.5×H5.5 [右] W50×D4.5×H6.5
8	星野友幸 香合 李 [桐箱付・後日]	P12	35,000 (38,500)	φ56×H56
9	留守 玲 辞書に立つ [紙箱付]	P13	60,000 (66,000)	[上のもの] W25×D1.3×H6.5 [台] W120×D120×H1.2



160-0022

東京都新宿区新宿3-37-11

杉本さくら
KAKI-KOZUKEI
JAPAN